

人権学習展開例

第5・6学年共通

- 主題名 相手のことを知って より良く関わろう②
- 教材名 見ただけでは分からないけど 知っていた？
- 人権学習の視点 個別的な視点「障害のある人の人権問題」
- 主題・教材について

本教材では、「なにかできるかな？ なにができるかな？」の内容を踏まえ、発達障害の特性について、体感やイラストを通して理解させ、特性に応じた配慮や、児童同士がどのように関わっていくことが大切なのかについて考えさせる、個別的な視点からの教材である。

個々の配慮について、児童の中には「なぜあの子だけが特別な方法で」という思いが出てくるとも予想されるが、「障害があるからできない」という理解ではなく、「別の方法ならできるようになることもある」という理解につなげたい。また、一人一人には違いがあり、できるかできないかということだけで判断するのではなく、どのような努力をしているのかという過程を見る視点も大切にし、特性を生かし優れた能力を発揮できるなど、特性のプラスの面にも気付かせたい。

●ねらい

発達障害の特性を理解し、相手のことを考えてより良く関わろうとする態度を養う。

●関連する教材

人権学習資料集<小学校編Ⅳ>「なにかできるかな？ なにかできるかな？」(3・4年生用)

●本時の展開

※実施にあたっては、例として取り扱う特性や、登場人物の名前など、学級内の児童の状況や保護者の思いなどに十分留意すること。

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	○3つのケースに出てくる3人の行動について、どのように感じるかを発表させる。	一斉	<p>○3つのケースに出てくる3人の行動についてどう感じるかを発表する。</p> <p>だいちさんのケース (文章を読む時につかえたり、まちがえたりする。) 「読めないのかな」「頑張れ」「練習不足だ」など</p> <p>さくらさんのケース (話しかけても反応してくれない。) 「聞こえないのかな」「大きな声で話そう」「無視しているのかな」など</p>	○それぞれのケースにおいて、否定的な発言も出てくるとも考えられるが、ここでは様々な感じ方を取り上げ、後半に障害の特性について学び、考えが変わったり、深まったりすることにつなげる。 ※特定の児童を揶揄するようなことにならないよう注意すること。	<p>掲示資料①</p> <p>掲示資料②</p>
			<p>3人の行動を見て、どう感じるかな</p>		

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	○本時の学習課題を知らせる。	一斉	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">えりさんのケース</div> (友だちと話している時に、関係ない見たままのことを言うってしまう。) 「どうしてそんなひどいこと言うのかな」「関係ない話だよね」「おかしいとは思うけど何も言わない」など	○周囲から見ただけでは分からない状況を知り、より良い関わり方を考えることを学習課題とする。	掲示資料③
			○本時の学習課題を知る。		
展開	見ただけでは分からない状況を知ろう				
	○3人の特性の状況を把握させる。	一斉	○文字の見えにくさを感じている人がいることを知る。	○文字の歪み、文字の重なり、文字の反転、文字のかすみ等を見せ、読みにくさを体感させる。	掲示資料④
		一斉	○必要な音(情報)の聞こえにくさを感じている人がいることを知る。	○雑音の中で、必要な音(情報)の聞こえにくさを体感させる。	音声資料 (トラック1~3)
		一斉	○人の気持ちを感じる人が難しい人がいることを知る。	○悪気があって人を傷つける言葉を言っているのではないことを理解させる。 ○障害の特性について詳しく説明することが目的ではなく、見た目では分からないが、困っている状況があることに気付かせる。	掲示資料⑤
	関わり方を考えよう				
	○自分ならどのように関わるかを考えさせる。	個人	○それぞれの人とどのような関わり方をすれば良いのかを考える。	○障害の特性を踏まえた関わり方について、ここでは相手との関係をより良くするという視点で考えさせる。	ワークシート
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">だいちさんのケース</div> <ul style="list-style-type: none"> ・やさしく教える。 ・時間がかかっても待つ。など <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">さくらさんのケース</div> <ul style="list-style-type: none"> ・人が話す時には、周りの人が静かにする。 ・みんなで話す時には、一人ずつ話す。 ・静かな場所で伝える。など 			○それぞれの障害に対する支援は、決まったものではなく、あくまで一人一人の特性に応じた支援が必要であるが、児童が考える関わり方が、逆効果になる場合もあることから、指導者は障害の特性や支援のあり方について十分に理解しておく。(指導者用資料参照)		

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
展開			<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">えりさんのケース</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「○○」なんて言われたら悲しいよと伝える。 ・言った人に理由を確かめる。など 		
		一斉	○考えを発表し、全体で交流する。	○それぞれの考えを聞く中で、関わり方の広がりを持たせる。	
		一斉	○関わりを持つ時に大切なことを考える。 ・相手のことを知ろうとすること。 ・「変わった人」と考えるのではなく、話をしてより相手を理解する。 ・相手に合った関わり方を考える。	○ワークシートに考えたことを書かせ、感想に反映されるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">補助発問</div> ・相手のことを見ただけで分かるかな。 ・どうしたら分かるのかな。 ・知るだけでいいのかな。	ワークシート
別の方法で能力を発揮することができたり、特性を生かして活躍している人を知る					
	○特性に応じた支援（配慮）で能力を発揮できる場合があること、特性を生かして活躍している人がいることを知らせる。	一斉	○特性に応じた支援（配慮）で能力を発揮できる場合があること、特性を生かして活躍している人がいることを知る。	○障害の特性にはプラスの特性（得意な分野）もあり、プラスの面を伸ばすことで、できないことを補い、生活しやすくなるという視点を持たせる。 ○自らの障害を公言している有名人など、障害があっても活躍している人の例を紹介するのも良い。	
まとめ	○発達障害等の特性のある人と関わる上で大切なことをまとめる。	一斉	○教師の話を書く。	○確認の際のポイント ・相手を知るために、しっかり見たり、聞いたり、話したりする。 ・相手がどのような状況なのかを知り、知った上で、それを認める。 ・どのような関わり方が、相手にとってより良い関わりなのかを考える。	
	○学習の感想を書く。	個別	○学習を通して、思ったこと、感じたことを書く。	○「できないこと」がすべて「障害」であるという捉え方にならないようにする。 ○今日の話の中で、自分の中で考えが変わったことや、これから変えようと思うことや感じたことを中心に感想を書かせる。	
		一斉	○感想を発表する。	○数名に発表させる。	

発達障害等の特性を理解し、相手のことを考えてより良く関わろうとする態度を養うことができたか。

<指導上の留意点>

本教材は、「主題・教材について」にあるように、発達障害等に見られる特性の理解のもと、児童同士がどのように関わっていくことが大切なのかを考える教材です。学級内には様々な特性を有する児童が在籍しており、取り上げる内容や展開については、学級、児童、保護者の状況等に留意し、指導者の十分な理解の上で実施する必要があります。

同時に人権学習の視点として、障害のために「できない」ではなく、別の方法で「できるようになる」という視点や、一人一人には違いがあり、特性を生かし優れた能力を発揮できることなど、特性のプラスの面に気付かせることが大切です。

大事なことは、その人がどんなことができ、何が苦手なのか、どんな魅力があるのかといった「その人」に目を向けることです。そして、その人その人に合った支援があれば、だれもが自分らしく、生きていけるといことです。

<資料①～⑤について>

資料①（だいちさん）は、読む能力について困難がみられる例の中で、特に文字の読み書きの能力に著しい困難を持つ「ディスレクシア（読字障害）」の人の見え方の例を、資料④で示しています。

資料②（さくらさん）は、聴く力はあるにも関わらず、騒がしい状況になると必要な情報を聞き取ることに困難が見られる例です。音声資料では、トラック1の音声が、トラック2やトラック3のように聞こえるという例を示しています。

資料③⑤（えりさん）は、相手の気持ちを感じ取ったり、想像したりすることが困難な特性の例です。

なお、それぞれの資料で扱っている特性については、様々な障害の特徴が重なり合っている場合もあり、必ずしも一つの障害の特性を説明しているものではありません。

実施にあたっては、資料で扱っている特性や、登場する人物の名前などについて、学級の児童の状況に十分配慮してください。

※ディスレクシアについては、以下のサイトが参考になります。

● 「ディスレクシアについて」 DINF 障害保健福祉研究情報システム

<http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/access/daisy/symp20080112/kouen1.html>

（公財）日本障害者リハビリテーション協会 情報センターホームページ